

令和3年度における四條畷市野外活動センターの管理運営に対する評価票

所 管 課：教育委員会 青少年育成課

評価対象：令和3年4月1日～令和4年3月31日

評価委員会開催日：令和4年9月21日

1 指定管理者

指定管理者	特定非営利活動法人ナック
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日（5年間）
施設概要	市民が余暇時間の活用として日常生活から離れ、豊かな自然環境の中で、森林浴や日光浴などを通じて、心身のリフレッシュを図るとともに、新たな仲間づくりやコミュニティづくりを進めることを目的とする。
指定管理料	13,310,000円（令和3年度、税込み）

2 管理運営の内容

項 目	令和3年度の状況
運営状況	<p>（1）平等利用の確保</p> <p>①公平化と利便性を図るため、利用申込みは電話で受け付け、利用料金や利用システムなどの情報を提供し、対象や活動内容を確認した上で、利用者が活動しやすい場所への案内やプログラム援助などを行い、安全で安価に利用いただけるよう、すべての利用者に対して公平・公正な対応に努めた。また、日中に電話での申込み等ができない方には、メールやFAXでの問合せにも対応した。</p> <p>②高齢者、障がい者など、幅広い層の方々に等しく利用の機会を提供するため、対象や活動内容、ニーズに配慮した活動場所の調整、利用のアドバイス、当日の援助に努めた。例えば、利用申請の際に、受付にて説明をしながら申請書を記入いただいたり、条例に定められた割引をこちらから情報提供するなど、利用者へのサービスの徹底を心がけた。また、高齢者や障がい者の団体には、駐車場から近く比較的活動しやすい場所を案内し、特に雨天時に施設職員が場内まで車を誘導するなど、臨機応変な対応を行った。</p> <p>（2）自主事業の展開</p> <p>①「SORA☆天体観望会」では、指導員が望遠鏡で捉えた天体を観望する一般的なスタイルではなく、指導員の指導のもと、自ら望遠鏡を操作して、天体を捉え観ることができた瞬間の感動を体感することを大事にした『体験型天体観望会』というスタイルでの事業を続けている。</p> <p>②就学前の幼児を対象とした「森のようちえん」を、職員とアウトドアリーダーだけでなく、子育て経験のある市民をインストラクターとして迎え、幼児の精神面・生活面（トイレ・着替えなど）をサポートする体制で実施した。また、キャンプ後の子どもたちの感想が知れるよう、「伝言カード」という形で保護者とやり取りするシステムを取り入れた。</p> <p>③小学生を対象に子どもキャンプ事業を実施し、コロナウイルス感染防止に留意しながら、多くの子どもたちに自然体験を楽しんでいただいた。なお、キャンプに参加させたいがコロナが心配という方もおられることから、「宿泊型キャンプ」と「日帰り型キャンプ」の両方を実施した。</p> <p>④ファミリーを対象に「カレー作り」や「竹の流しそうめん」などに挑戦する事業を実施し、家族間での自然体験の共有やコミュニケーションの促進などに資するよう取り組んだ。</p> <p>（3）施設の情報提供</p> <p>①「ホームページ」「Facebook」「Instagram」において、施設や自主事業について発信をすると共に、四條畷の自然、天体などの情報を頻繁に更新することで、関心を持っていただけるようPRに努めた。</p> <p>②ウェブ上のバーベキュー情報サイト数社に登録を行い、また、企業の情報冊子に掲載していただくなど、各方面での情報発信に随時努めた。</p>

	<p>(4) 安全確保対策</p> <p>①施設運営における各種マニュアルを備え、それに沿った対応を図るよう常に努めており、事故があった際には、事故等管理体制を基に対応するようにしている。また、自主的に行っている消防訓練の際には、AEDの取扱いについても熟知するよう努めている。</p> <p>②感染症等に対する予防対策として、大阪府の方針に従いながら、施設で「新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル」を作成し、それに基づいた利用者の受け入れと対応に徹した。具体的には、案内をする場所の定員を半数にした受け入れや徹底した消毒などを行った。</p> <p>③管理棟やテントサイトなどの各トイレに非常時の呼出しボタンを設置したほか、集会用テント下に防雨型の照明器具を取り付けるなど、安心して利用いただけるよう整備をした。また、車いすの方が通行しやすいよう、スロープの草枝伐採や通路の清掃にも心がけ、グラウンド入口からスロープ近くまでの大半を舗装修繕することで、利用しやすい環境も整えた。</p>
維持管理状況	<p>(5) 保守点検</p> <p>①職員の出勤時・帰宅時にはサイト内点検を行い、施設内に異常がないか、日々の確認と点検に努めている。破損箇所は、職員の作業で簡易補修又は業者の修繕とし、利用者が安心安全な環境で野外活動を楽しんでいただくための整えに努めた。また、天体機器について、職員によるメンテナンスを行い、天体棟にある機器のすべてを、いつでも活用できるよう整えた。</p> <p>②合併浄化槽、消防設備については、保守や点検に係る業務を専門事業者へそれぞれ委託している。</p> <p>(6) 清掃業務</p> <p>①利用受け入れ前に、利用者が快適に活動できるよう、活動場所の清掃は、日々職員で実施している。また、利用者活動中に現場の様子を見に行き、自炊場の水場の処理や、トイレの点検なども実施している。</p> <p>②野外の施設であっても、人為的に清潔に保たれ、衛生的なキャンプ場であるよう、また、土日等の多くの方の利用後は、ごみ拾いを行い、キャンプ場内にごみがないよう努めている。</p> <p>③グラウンドやテントサイトなどの雑草は、利用のない日を選び、定期的に職員で草刈りを実施。また、駐車場やスロープ沿いに飛び出した枝葉なども、気づいた時に剪定し、利用者が通行しやすいよう努めている。</p> <p>④秋季から冬季にかけて、落ち葉かきを、可能な限り実施した。</p> <p>(7) 警備業務</p> <p>①職員帰宅後の夜間警備や火災警備については、保安機械警備として専門事業者へ業務委託している。</p> <p>(8) 環境への配慮</p> <p>①窓を開放することで日頃エアコンなどの運転は控え、利用者の居ない時は照明を減らすなど、節電に努めている。</p> <p>②ダンボール、缶類等の資源については、適切な業者を選定して回収を受けるなど、リサイクルに努めている。</p> <p>なお、令和3年度も、感染防止対策の一環として、特殊な事情がない場合はごみをお持ち帰りいただいた。</p>
利用状況	<p>年間利用者数は、「日帰り」が6,596人、「宿泊」が689人の、合計7,285人であった。</p> <p>前年度と比較し、日帰りは896人の増加、宿泊は326人の増加となった。日帰り利用と宿泊利用のどちらも、コロナ禍の中、前年度から増加した。</p>
収支状況	<p>コロナ禍の中においても執行額は当初の予算額と同程度となり、最終的な収支は595,548円の黒字となった。</p>

3 利用者へのアンケート調査

項 目	令和3年度の状況
調査の実施内容	期 間：令和3年4月1日～令和4年3月31日 対 象：施設利用者 調査方法：利用者（家族、団体の代表の方）にアンケートの回答を依頼 回答件数：119件
調査の結果	主な質問と回答については、次のとおり。 ・施設に来たのは何回目：「初めて」55件、「2～4回目」50件、「5回目以上」14件 ・施設を何で知った（複数回答あり）：「以前から利用経験あり」46件、「ホームページ」39件、「BBQなどの情報サイト」12件、「友人からの紹介」6件、「市広報誌」5件、「Facebook、Instagram」2件 ・どういった団体：「家族」77件、「友人」24件、「青少年団体」7件、「サークル」2件、「その他」（子ども会、学校、会社、個人等） ・施設の印象・雰囲気（設備管理や清掃なども）：「良い」100件、「普通」19件、「良くない」0件 ・スタッフの対応：「良い」113件、「普通」6件、「良くない」0件
主な苦情・意見等	シャワールームの改善を求める意見等があった以外は、「よかった」「楽しかった」「ありがとう」といった声がほとんどであった。

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○5	●4	○3	○2	○1
講 評	<p>コロナ禍の中においても、大阪府の方針に従いながら、定員を半数にした受け入れや徹底した消毒などの対策の下で安全な運営に努め、収支の黒字を達成したことは評価する。</p> <p>また、利用者アンケートでもこれまでと同様に引き続き高い評価を得るなど、ホスピタリティの精神を大切にする管理者の取組についても評価する。</p> <p>今後は、利用者へのサービスの質を維持向上しながら、新たなプログラムの実施や利用者の開拓をさらに努めていただくとともに、四條畷市民のアウトドアリーダーの育成を期待する。</p> <p>以上の内容から、「計画内容をやや上回るため努力している」と判断し、評価を「4」とする。</p>				

（参考）評価の基準

- 5 計画内容を上回る（非常に満足できる）結果
- 4 計画内容をやや上回る（満足できる）結果
- 3 計画内容どおりの（妥当と判断する）結果
- 2 計画内容をやや下回る（不満が残る）結果
- 1 計画内容を下回る（非常に不満が残る）結果